

大会企画第1日目

ワークショップ「何が体を動かすのか？」

講師 蟬丸 (山海塾 舞踏手) 指導アシスタント 岩本大紀 (山海塾 舞踏手)
コメンテーター 石黒節子 (お茶の水女子大学名誉教授 舞踊家) 進行 福本まあや



始めに山海塾の稽古や世界各国で行うワークショップの様子、通常はとても長い時間をかけて行う、稽古の時には鏡を使わない、野口体操を取り入れているなどについてお話しがありました(写真左)。

一つ目のエクササイズは2人組で、一方(A)が仰向けになり、他方(B)がまずよく観察。Bは、Aの左右非対称の部位や力がぬけていないように見える部位を押ししたり置きなおしたりします。「置きなおしてもまた戻ってしまう場合がありますが、その時はそのままにします」(蟬丸氏)。それからAはBの足首を持ち上げ、波を相手に伝え、それをまた観察します(写真右)。説明の後、参加者が一斉に実施。



また、2人組で一方がうつ伏せ(写真左)、それから四つん這い(写真右)で、背骨にガラス玉が通るというイメージで、背骨を波のように動かすエクササイズを行いました。「小さい球が皮膚の下を通り、少しでも背骨を順繰り釣り上げてゆく。ただし、このイメージを人に伝えようとするのではない。」(蟬丸)



約70分の実技の後、コメンテーター石黒氏より、「重さへの気づきを重視した内容。自分の宇宙空間での舞踊構想での経験と近いものがあり興味深かった」というお話しがありました(写真左)。「何が体を動かすかというテーマについての蟬丸氏自身の答えは？」という石黒氏の質問には、「それはイメージだったり、いつのまにか動いていた」(蟬丸氏)。答えは複合的なもので、動きながらこの問いを続けることそのものが課題と感じました。最後に、参加者との質疑応答が行われました。(文責: 福本)